

日本ペンクラブ 津田塾大学
90th × 125th
anniversary

김연수

キム・ヨンス 氏
作家



우다영

ウ・ダヨン 氏
作家



平野啓一郎 氏

モデレーター
日本ペンクラブ理事
国際委員長・小説家



©Tamaki Yoshida

会 場 津田塾大学千駄ヶ谷キャンパス
「広瀬記念ホール」

定 員 250人

資料代 一般 1,000円 / 学生 無料

主 催 一般社団法人日本ペンクラブ

共 催 津田塾大学言語文化研究所
「世界文学の可能性」プロジェクト

企 画 日本ペンクラブ国際委員会

企画協力 早川敦子 氏
(津田塾大学 学芸学部英語英文学科教授)

登壇者の書籍販売、サイン会を予定しています

韓国現代作家の眼差し

時代を生きる 混沌迷の

2025 5.16 金
18:00-20:30 開場 17:00

申込方法

- 1 Peatix
<https://jpen-021.peatix.com>
- 2 Googleフォーム
- 3 電話 03-5614-5391



Peatix



Googleフォーム

お問合せ



一般社団法人
日本ペンクラブ 事務局

TEL 03-5614-5391
event2025@japanpen.or.jp
<https://japanpen.or.jp>

韓

国文化への関心は、日本でも年々高まりを見せ、韓国文学の日本語訳も活発に行われています。世界では政治的な緊張が高まり、テクノロジーの急激な進歩は、未来予測を困難にしています。現代韓国を代表する二人の作家は、どのようにこの社会を見つめ、人間を理解しようとしているのでしょうか？ 平野啓一郎氏（日本ペンクラブ理事・国際委員長）を聴き手に、存分に語っていただきます。



『七年の最後』
訳 橋本智保／新泉社



『世界の果て、彼女』
訳 呉永雅／CUON

キム・ヨンス

1970年生まれ。93年、「文学世界」に詩を発表し、詩人としてデビュー。94年からは小説の執筆に専念。『仮面を指して歩く』を発表し、小説家として高く評価される。『世界の果て、彼女』、『ワンダーボーイ』、『ぼくは幽霊作家です』、『夜は歌う』、『四月のミ、七月のソ』、『ニューヨークの製菓店』、『波が海のさだめなら』、『七年の最後』など邦訳された作品も多い。李箱文学賞、大山文学賞、東仁文学賞、金萬重文学賞、黄順元文学賞、許筠文学作家賞など、数々の文学賞を受賞。現代韓国を代表する作家である。

ウ・ダヨン

1990年生まれ。大学在学中の2014年、短編『三人』で文芸誌「世界の文学」の新人賞を受賞し、作家デビュー。短編集に、2018年『夜の兆候と恋人たち』、2020年『アリス、アリスと呼べば』（邦訳有）、2023年『しかし誰かはもっと黒い夜を望む』がある。他に、2021年の中編小説『北海で』などがある。洗練された文体と神秘的なスタイルで注目される現代韓国を代表する新進気鋭の作家である。



『アリス、アリスと呼べば』
訳 ユン・ジョン／垂紀書房



『しかし誰かはもっと黒い夜を望む』
그러나 누군가는 더 깊은 밤을 원한다
未訳／文学と知性社



『富士山』
新潮社



『本心』
文藝春秋

平野啓一郎

1975年、愛知県蒲郡市生まれ、福岡県北九州市出身。京都大学法学部卒。在学中の1999年に文芸誌『新潮』に投稿した小説『日蝕』で第120回芥川賞を受賞した。以後、一作毎に変化する多彩なスタイルで、数々の作品を発表し、各国で翻訳紹介されている。主な著書に、小説『葬送』、『高瀬川』、『決壊』、『ドーン』、『空白を満たしなさい』、『透明な迷宮』、『マチネの終わりに』、『ある男』、『本心』等、エッセイに『本の読み方スロー・リーディングの実践』、『小説の読み方』、『私とは何か「個人」から「分人」へ』、『考える葦』、『「カッコいい」とは何か』、『死刑について』、『三島由紀夫論』等がある。2024年、短篇集としては10年ぶりの発表となる最新作『富士山』を刊行。

会場

津田塾大学千駄ヶ谷キャンパス
「広瀬記念ホール」
〒151-0051
東京都渋谷区千駄ヶ谷1-18-24

■電車でお越しの場合

JR中央・総武線 千駄ヶ谷駅 下車 徒歩 約1分
都営地下鉄大江戸線 国立競技場駅 下車 A4出口より徒歩 約1分
東京メトロ副都心線 北参道駅 下車 徒歩 約10分



Google Map